

平成21年度後学期 学生による授業評価アンケート調査 (最終)

「アンケート結果に応じて」

| | | | | | |
|--|------------|----------|--|-------------|------|
| 所属部局 | 大学院法務研究科 | | 氏 名 | 正木祐史 | |
| 講義コード | 2359035010 | | 講 義 名 | 刑事司法論 (夜間主) | |
| 開講曜日 | 月・木 曜日 | 13・14 時限 | 専門科目・全学教育科目・全学教育科目 (理系基礎科目) | | |
| 授業回数 | 30 回 | 休講回数 | 0 回 | 補講回数 | 0 回 |
| | | | | 受講登録者数 | 58 人 |
| <p>成績評価に際し注意した事項</p> <p>中間試験と最終試験とで、前者の平均点がやや低かったため、最終試験の比重を高くして基礎点を算出した。さらに、課題の提出・内容を加点方向にのみ勘案して最終成績とした。</p> | | | | | |
| <p>報告内容</p> <p>1. 評価アンケートの結果を見て</p> <p>カルテの要注意項目につき、集計表平均値が低く、かつQ14との相関が高かったのが、授業難易度に係るQ12で、「難しすぎた」との回答 (C評価が5名) であり、A評価も他の項目と比べると少なく68%程度にとどまっている。この項目は、授業理解度に関わるもので、それは (講義時間以外の) 勉強量と相関があるものと思われるし (この点、大学設置基準および人文学部規則では、講義時間の [少なくとも] 2倍の自学自習を要求していることにも留意してほしい)、講義内容については、「理解できること」にとどめるのではなく「理解してほしいこと」を提示する観点もあって毎年苦慮する点であるが、なお吟味したい。他に満足度が低かったのは授業進度に係るQ6であるが、これはQ14との相関がかなり低く、C評価が2名と僅少だったこともあり、一応の注意喚起と受け止めておく。</p> <p>2. 自由記述に応じて</p> <p>自由記述欄のうち改善点は記入が1通あり、「聞き取りづらいところがあった」というものであった。同様の指摘は中間アンケートにもあり、改善の努力を伝えていたところ、自由記述欄に上記記入をした1通についてはQ1にはB+と回答し、かつQ16についての具体的な回答はなかった。他方、(中間アンケートのどの項目に対するものか定かではないものの) Q16に回答したものはA評価2名であった。評価に値する改善があったもののなお不十分ということであるならば、引き続き留意したい。他方、評価点への自由記述をしたものは6通あり、分かりやすさ・真剣さについて言及されていた。</p> <p>3. 今後の授業改善について</p> <p>基本的に上記1. のとおり。なお、Q12やQ6のようなものであればある程度はその評点のみで対応のきっかけがつかめるが、具体的な改善のためには具体的な声が欠かせない (例えば上記2. の如く)。特にB評点以下をつける場合には、合わせて自由記述欄への記入をお願いしたい。</p> | | | | | |